

学校評価アンケート自己評価の結果

【評価段階】

4…よくできている 3…まあまあできている 2…あまりできていない 1…全くできていない

【評価表】

評価項目	内容	評価点	
保育の 計画性	園の理念	園の建学の精神や理念、教育目標を理解している	3.7
	教育要領	教育要領を読み、園理念の理解とあわせて園長や主任と話し合う	2.8
	教育課程	指導計画は、教育要領・教育課程そして園児の実態に即して作成し、周囲の状況や変化に対応できるものとしている	2.8
	環境構成	園児の健康に配慮した、安全で安心な清潔感のある環境を構成する	3.5
		園児が自発的に活動し、主体的に関わりたくなるような素材や遊具に配慮し、必要な数量を用意する	3.2
		園児の発達を見通し、心と身体のバランスがとれるよう、季節を考慮した活動と寛ぎにより、豊かな活動が展開できるよう配慮する	3.4
		園内外の自然への理解や、季節の変化に応じた環境の構成をする	3.2
	評価・反省	自己の保育についての評価・反省を様々な観点から行う	2.7
		自分の保育を評価・反省することで、園全体の保育に活かしている	3.1
	園児への 対応	健康・安全	日頃から園内の危険箇所に配慮し、予測し対応する
毎日の園児の健康視診を重視し、適時主任へ相談する			3.8
事故やケガが発生した場合は迅速に適切な処置を行う			3.5
幼児理解		園児一人ひとりをよく観察し、幼児の思いを受け止め、認め言葉を中心にかかわる	3.5
		個々の成長発達をふまえ、園児一人ひとりの対応を工夫し、見通しを持って保育する	3.5
指導		園児の思いや考えに共感し、受け入れた上で、道筋を示す	3.6
		規範意識・道徳性を培ううえで、モデルとなるよう心がける	3.5
		園児の年齢・発達に応じた指導や援助をする	3.6
保育者の 資質・ 能力		姿勢 能力 義務 組織	ふさわしい清潔感ある服装、髪型、身だしなみを心がける
	職務上の情報等の秘密を守秘する		3.8
	社会人の常識をわかまえ、行動する		3.4
	教職員組織の協調性を大切にし、チームとしての自覚を持つ		3.4
	率直な意見交換を行い、組織内の問題の共有化に努める		2.7
	当番や役割義務など、課せられた仕事は確実にを行う		3.4
	教師としての感性・教養を深める		3.0
保護者へ の対応	対話 交流 苦情 対応	保護者に園児の様子を的確に伝える	3.6
		保護者からの相談や要望をよく聞くように心がける	3.0
		保護者との対応には公正さを信条とし、教師としての自覚を持った、丁寧で正確な言動を心がける	3.7
		電話での対応は、わかりやすく真摯な対応に努める	2.9
		保護者からの話して、自分で判断出来ない場合は、園長・主任等に報告、連絡、相談をする	3.3
		苦情の内容によっては教職員組織全体で共有化し、共通理解の上で対処する	3.3
		地域・	地域

自然・社会との かかわり		地域の住民に配慮した保育を行い、清掃を協力し、騒音を抑える努力をする	2.4
	幼小連携	小学校の教育内容について理解するよう努める	2.1
		地域の小学校行事や公開授業等に関心をもつ	2.0
	子育て支援	子育て支援や地域への開放について、内容を理解する	2.3
教員としての知識を活用し、子育て支援や園庭開放へ取り組む		2.4	
研修と 研究	研修や研究 への 意欲・態度	研修に自己課題を持って積極的に参加する	2.6
		自分の保育について自己課題を持って、日常的に研究を怠らない	2.6
		自分の保育のあり方や悩みについて、他の保育者や主幹、園長に相談する	3.3
	保育者とし ての専門性 に関する 研修や研究	幼児の発達に必要な知識を学び、現場に活かす研修・研究を行う	3.0
		記録の取り方、考察の仕方に関する研修・研究を行う	1.9
		教育課程や指導計画の理解と作成に関する研修・研究を行う	1.8
		幼児の発達を見通した環境構成や教材に関する研修・研究を行う	2.6
	専門的課題 に関する 研修や研究	保護者への対応に関する研修・研究を行う	1.9
		組織内の協力・連携に関する研修・研究を行う	1.9
		アレルギー、成長の遅れ、問題のある幼児について研究し理解する	2.4
		預かり保育や子育て支援について研修や研究をする	1.7
		幼小連携の必要性や具体的方法について研修や研究をする	2.3
		子どもたちの安心・安全に関する、危機管理の必要性と対応について研修や研究をする	2.4

※地域の自然や施設とは、公園や博物館の公的機関や、商店等の民間の施設も含む。

※研究とは、書籍やネットで調べたり、目的をもった工夫された保育を行い、記録し総括を次に活かすこと

【総評】

- ・「園の理念、園の目標、方針」を理解し、保育ができていけるかが高評価なのに対し、指導要領への理解評価が2.8と少なく、園の理念と教育要領、過程の理解アップが必要である。
- ・個々の保育については、自己の中で満足のいく保育ができていけるので、職員全体として目指す保育像、理想とする保育を共通理解し、園の方向性を園全体で考えていくことにチャレンジする段階である。
- ・少ないながらも、自然環境を最大限に活かし、子どもを真ん中に環境構成を考えていくことに引き続き力を入れていく。
- ・各教員が、子どもに対する指導への経験や自信が積み重なってきているが、反面、保護者対応への評価が若干低くでている。コロナ禍ではあるが、保育へ対する自信がそのまま保護者へ対する自信につながるよう、接面を増やすよう工夫をしていきたい。
- ・コロナ禍の中で、行事の中止や変更が余儀なくされた。生活様式も日々変化している中で感染症対策を園でも重点を置き子ども達と共に考えていながら正しい知識で今後も取り組んでいくという職員の意識の高さを再確認した。子ども達に負担をかけず、心の面や成長の発達を守ることを最優先とし、今後も努めていく。
- ・研修や研究については、教育要領や課程、個人記録や要録に渡り、必要とされる知識の獲得に不足があり、大幅な研修制度の見直しの必要がある。教員に必要な分野の強化はもちろん、他分野に目を向けられるように園として取り組む課題とする。また、必要な研究なしでの、実践保育への自信は、我流の保育に偏る傾向にあるので改善したい。
- ・全体的に、主任等によく相談する風通しの良い環境にある評価である。研究等を補う形で園内で良く相談がなされている風潮であるが、各自の研修研究がなされても、引き続き連絡や相談が密に行われるよう維持したい。
- ・これからも子ども達を主役とし、子ども達のためにより良い保育を目指していきたい。